

稲わらのすき込みで土づくり

稲わらは大切な有機質資源です。

稲わらは焼却せず、すき込みして有効に活用しましょう。

すき込みの効果

毎年すき込むことで堆肥とほぼ同等の効果が期待できます。

- ・作土が厚くなる
- ・土が軟らかくなる
- ・土壌窒素量が増える…



稲わらのすき込み作業

すき込みの方法

- 1 すき込みは秋が基本です。刈取り後、早めに行いましょう。
- 2 コンバインで細断した稲わらは均一に散らします。
(山盛りのままですき込むと、生育ムラとなりやすい)
- 3 石灰窒素などの腐熟促進剤を散布するとさらに効果的です。
- 4 プラウやロータリーですき込みます。

すき込みした水田の管理

1 基肥施用量

すき込み年数	基肥窒素量の目安（生育に応じて加減する）
連用2～3年目まで	慣行より5～10%増やす 「つがるロマン」は倒伏しやすいので加減する
連用3～4年目	慣行と同量
連用4～5年目以降	慣行より5～10%減らす

- 2 代かきは水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込みます。
- 3 ガスによる根腐れを防ぐため、一時落水、中干し、溝切り
間断かんがいなどで、土に酸素を供給しましょう。

稲わらの有効利用に関するお問い合わせは

農業普及振興室 電話 0172-33-2903

黒石分室 電話 0172-52-4335

青森県農林水産部食の安全・安心推進課

電話 017-734-9353

またはお住まいの市町村へ

